

2023年 新年のご挨拶



迎春

一般社団法人
日本自動販売システム機械工業会
会 長 森 益哉

新年明けましておめでとうございます。2023年新春のご挨拶を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の世界的流行から約3年が経過し、日々の生活・環境だけではなく、社会の在り方そのものが大きく変化しました。このような状況の中、ニューノーマルな行動様式の確立やリモートワークなど働き方の変化により、少しずつではありますが日常を取り戻しつつあります。昨年においては、1日あたりの新規感染者数が過去最高を超える26万人を記録しました。しかし、現在新型コロナウイルスとの併存に向け、感染対策の考え方が見直されるようになり、全国旅行支援などの施策が実施され、経済回復に向けて力を蓄える時期を迎えています。視点を変えてみますと、ロシア・ウクライナ情勢の長期化による原材料価格の高騰、円安の進行や物価上昇など、事業を取り巻く環境の変化に対応を迫られております。しかしながら、国内経済においては、米国・欧州を中心とする海外経済の停滞に伴う輸出減が強まるものの、一昨年より堅調に回復してきた個人消費が、引き続き経済回復をけん引していくものとされます。

さて、自販機業界におきましては、飲料自販機の2022年1月～12月の新台出荷は約12万台となる見込みで、コロナ禍に入ってから初めて前年を上回りました。これはワクチン接種の普及により屋外での活動が再開され、飲料市場の売上が前年よりも微増したことが、停滞していた飲料メーカーからの需

要を幾分喚起した結果となりました。また、食品自販機においては、冷凍自販機が保存技術の進歩により多様な中身商品を取り扱えるようになったことや、非接触ニーズの高まりから人気を博しました。こうした冷凍自販機人気を受け、食品自販機の年間出荷台数は前年の2倍に迫る勢いで伸長いたしました。さらに、経済産業省及び農林水産省が所管する助成金等支援策を上手く活用することで、今後の市場拡大にも大いに期待が持てます。一方で、切符自販機においては前年と比べほぼ横ばいとなりました。乗車券券売機においては、コロナ禍による券売機の利用率低下を背景に、機器の置き換えサイクルが延長される傾向にあります。食券券売機の出荷は前年比を上回るものの、コロナ禍以前のような大きな成長にはほど遠い状況です。また、電子部品等のひっ迫は、依然として改善の見通しが不透明であり、2024年度上期発行予定の新日本銀行券への対応にも影響を及ぼすと懸念されます。しかし、非対面という特性を活かしながら、社会に適した自販機が脚光を浴びるなど、自販機の存在価値を再確認した一年となりました。

さて、2023年は十干では最後の年となる「癸卯」にあたります。「癸」は雨を司るとも言われ、一粒は小さな水滴ですが、集まっては大きな川の源となります。「卯（うさぎ）」もまた、一匹の力は弱いのですが、強い繁殖力で次世代へ命を繋ぎます。2023年は、小さな努力の積み重ねが大きな成果となり、「卯（うさぎ）」のように大きく飛躍する年となるよう一層取り組んで参る所存です。

今後ともご指導ご鞭撻をお願い申し上げ、皆様のご健勝とご繁栄を祈念して新年の挨拶といたします。

以 上